KBSラジオ × 京都CF!

薫のちょっとカフェ、もっとカフェ

楽屋バナシ

Vol.7

KBSラジオの人気番組をオンエア後の楽屋バナシも交えてお届けするコーナー。オッサンの足をカフェに向けるべく、京都のいまどきなカフェを毎回ピックアップ。連載を続けたその時は、カフェ通の素敵なオジサマに変身か!?

笑福亭 晃瓶
笑福亭 鶴瓶の二番弟子で芸歴20年を数える。目指すは「おばちゃんの気持ちがよくわかる」落語家

中村 薫
「天神祭りの御輿ギャル」という過去をもつ人気パーソナリティ。中学・高校教員免許を持つという知的な一面もアリ

「笑福亭 晃瓶のほっかほかラジオ」も番組スタート4月で7年目に突入！幅広いジャンルの話題を晃瓶＆薫のゴールデンコンビが楽しく分かりやすく毎朝お届け！まだ聴いたことがない人も、一度聴けばおのずと二人のペースにハマってしまう不思議な番組。

KBSラジオ1143KHz「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」（毎週月～木6:30～11:00 ）番組内コーナー「薫のちょっとカフェ、もっとカフェ」（毎月第1火10:05～）

今回は「カフェ・オパール」。場所は河原町通にて地下鉄京都市役所前駅から南へ少し下がったところにあるビルの6階。

6階ってまた高いとこやなぁ。エレベーターあるよなぁ？

もちろん（笑）。ただ、エレベーター止まって扉開いたらスグにお店なんでびっくりしないで下さいね。

おおっ、それおっさんはちょっと焦るし、心の準備してからエレベーター乗るわ（笑）。

その方がいいかも。といっても店内は家に帰ったような何か懐かし～い感じ。（※1）

懐かしいって、レトロな感じってこと？

ええっとね、テーブル毎に違うソファが置いてあって、それが家の応接間にあるような古いソファだったりとか懐かしい感じのアンティーク物なんですよ。

応接間かぁ、それやったらおっさんも落ち着いてコーヒー飲めそうやなぁ。

でしょ？ それと壁に幾何学模様みたいな柄の入った60年代メキシコのカーペットが飾ってあったり、玉暖簾みたいな飾りが下がってたりしてレトロな感じなの。

なんや長居してしまいそうやなぁ。

そうなんですよ～（笑）。実際、レポート書いてはる学生や読書してはるオジサマもいはったし。

そんな落ち着いてまうとお店は回転せえへんしあかんやん。

でもゆっくりしてもらうのが狙いでしょ。あっ、あとTシャツや石鹸とか雑貨の販売もしてるの。（※2）

カフェやのに雑貨売ってんの？ところでちゃんとお酒はあるんやろねえ？

ありますよ～。カクテル・ワインから地酒・焼酎と結構揃ってます！

おっ、ええやん。焼酎はおっさん大好きやで～（笑）。

どうぞ飲んじゃって（笑）。「今月のデザート」っていうのがあって私が食べたときは「グレープフルーツのフレッシュゼリーとアールグレイのシフォン」。これはオススメね。

ん～甘いもん好きやけど…、食べてるとこ見られたくないねん（笑）。

大丈夫（笑）。ちょっと壁際で人目から隠れた感じのソファ席もあるから！

ナルホド！ほな、おっちゃんが甘いもん食べたいときは、そのソファ席に座ればええんや（笑）。

※1：70年代ブラックムービーをイメージした店内は全てスタッフの手作り。その時々の気分で流動的にマイナーチェンジするので久々の来店だと雰囲気も変化している
※2：Tシャツは寺町二条の雑貨屋「a little beaver」とのコラボ物で、10色ほどのカラーバリエで展開

今月の教訓

カフェではテーブルやソファなどが60年代のアンティーク物や、スタルクやコルビジェなどのデザイナーズ物だったりと、ファニチャーにもその店の個性が滲み出る

Cafe Opal
京都市中京区河原町三条上ル丸屋町408番地
KUS河原町ビル6F
☎075・213・4476
平日・日曜12:00～L.O.24:00
金土祝前日～L.O.翌1:00
木休（祝日除く）

KBS info.

「ほっかほか玉手箱」

月～木 7:34～44頃 ON AIR

眠た目のリスナーにスッキリ目覚めていただくための、頭の体操コーナー。「ナゾナゾ」「世界の歌・日本の歌」「ことわざ劇場」「あっぱれお国言葉」などなど、1週間通して放送中。中でも新シリーズ「いろはカルタ」は、薫女史が「上の句」を考案、それに繋がるようにリスナーに「下の句」を考えてもらって一句成立、という趣旨で人気沸騰！ 名句がぞくぞく誕生し、耳の離せないコーナーに成長中。

林的映画三昧

イラストと文 ハヤシチサコ

イギリスの女流ミステリ作家サラ（S.ラファリング）は新作の創作のために訪れた南仏の別荘（出版社の社長が所有）で、社長の娘とジュリー（L.サニエ）との奇妙な同居生活が始まる。サラとジュリーは現実の中へと深く、深く、迷い込む。

ハヤシチサコ・無類の映画好きのイラストレーターにしてグラフィックデザイナー。「Club Fame」時代には、彼女のデザインが表紙を飾ったこともアリ。編集部の熱望により本誌への登場と相成った。